2016 年 2 月 24 日
NPO 法人　地域の未来･志援センター

2015 年度情報交流会
「豊かな自然を活かすネットワーク in 渥美半島」開催速報

●開催日…　2016 年 2 月 20 日(土)　集合時間～
　　2016 年 2 月 21 日(日)　9:00～12:00
●会場……渥美半島、伊良湖ホテル
　　(愛知県田原市伊良湖町恋路浦 2805-22)
●主催……NPO 法人地域の未来･志援センター/
　　一般財団法人セブン-イレブン記念財団
●共催……あかばね塾
●後援……愛知県、田原市、田原市教育委員会、豊橋市
　　環境省中部地方環境事務所
　　渥美半島生態系ネットワーク協議会
●協力……NPO 法人表浜ネットワーク
　　環境ボランティアサークル亀の子隊
　　NPO 法人渥美半島ハイキングクラブ
　　NPO 法人はっくるべりーじゃむ
　　いるかビレッジ
　　環境省中部環境パートナーシップオフィス
　　なごや環境大学
●参加者数……　一般参加者 103 名(目標数 100 名)
(事前申込み 102 名、当日参加 7 名、当日キャンセル 6 名)
　＊参加状況　　全プログラム参加:57 名
　　1 日目分科会･懇親会まで:27 名
　　1 日目講演会のみ:14 名
　　2 日目のみ:5 名
　　協力者 7 名、インターン生 1 名
　　理事 6 名、事務局 2 名

↑1 日目基調講演には 95 名の一般参加者

↑1 日目分科会【テーマ:森のようちえん】の様子

↑1 日目分科会【空き家活用･拠点づくり】の様子

＜主催者挨拶･趣旨説明より＞

今年度の情報交流会は、これまで主な開催地となっていた名古屋市を離れ、愛知県の東南の端、渥美半島・伊良湖岬での開催となりました。今回のタイトルは「豊かな自然を活かすネットワーク in 渥美半島」。私たちの社会の基盤となる自然を守るためには、これまで熱心に環境活動に取り組んできた人々の後継者が必要です。そこで、当団体の新たな方針として、それぞれの地域で活動する人々を中心に、よそ者や若者を呼び込んでのネットワークづくりを応援。今回の会ではその方針を明確にするとともに、それら地域ごとのネットワークを緩やかにつなぎ、中部の大きなネットワーク構築を後押しするスタートを切ることができました。

参加者は、共催団体、協力団体の皆さまの尽力により目標数 100 名を達成。地域の活動者、企業、行政関係者、他地域の活動者、若者等多様な人々が集結し、２日にわたり活発な交流が行われました。

＜　バスツアーと１日目講演会について　＞

◎1 日目：2016 年 2 月 20 日（土）

時　間	内　容	講師、ガイド、登壇者
12：45 ～16：00	**★資源再発見視察・バスツアー** あいにくの雨模様の中、渥美半島の特徴ある自然をめぐり、豊橋市自然史博物館館長・松岡敬二氏をはじめとする専門家によるガイダンスを行いました。 ↑縄文の生活や風習を伝える伊津川遺跡 ↑車内での熱心な解説に皆熱心に耳を傾ける	豊橋市自然史博物館館長　　松岡敬二氏 環境ボランティアサークル亀の子隊 鈴木吉春氏 表浜ネットワーク　田中雄二氏　他 ↑あいにくの雨模様。室内での説明 ↑アカウミガメの産卵地･表浜海岸を訪れる
16：35 ～16：45	**《会場であるホテルへ到着》** **開会挨拶**　　渡邊幸久 **趣旨説明**　　竹内ゆみ子 **主催者挨拶**　　小野弘人	あかばね塾事務局長 地域の未来・志援センター理事 地域の未来・志援センター理事長 地域の未来・志援センター理事 セブン-イレブン記念財団

↑**開会あいさつ** 渡邊理事

↑**趣旨説明** 竹内理事長

↑セブン-イレブン記念財団 小野氏

16：45～ 17：45	基調講演 1 なぜ、神山町に人は集まるのか？ 『田舎を素敵にする！ グリーンバレーのベンチャー精神に学ぶ』	講師：祁答院弘智氏 （NPO 法人グリーンバレー 理事 株式会社リレイション代表取締役）

＜講演要旨＞

◆自然を守るには後継者が必要

ＮＰＯ訪問ヒアリング活動で明らかになった環境活動の大きな課題「後継者」問題。持続可能な社会を構築するための『担い手』をいかに育てていくのか？　地域のネットワークの役割も、担い手づくり・後継者育成にあるとの認識が広がっています。

そこで今回は、今、日本中から若者が吸い寄せられる徳島県神山町のリーダーの一人、祁答院弘智氏をお迎えし、若者の心をつかむ事業や、暮らし・仕事のサポートについてお話を伺いました。

◆若者が集まる仕掛けをつくる！　まずは「農」から…山の再生も視野に入れて

講演では、若者と共に農や里山保全活動を持続的に行うには、そこでの暮らしを成り立たせる「仕事」「雇用」―新しいビジネスモデルの創出が不可欠であるとの考えが述べられました。自身も 2008 年に株式会社リレイションを創業し、神山町の後継者育成を行う『神山塾』を主宰。そのコンセプトや、ＮＰＯ法人グリーンバレーの多様な事業―地域の自然と文化・芸術のチカラを活用した「神山アーティスト・イン・レジデンス」、手に職のある若者に活躍の場を提供する「ワーク・イン・レジデンス」、里山保全活動「粟生森づくり」、休耕田を都会の若者が活用する「棚田再生事業」―についてご紹介いただきました。

↑講演会資料より

＜　分科会について　＞

分科会は、１日目、２日目を通して下記のテーマで行いました。

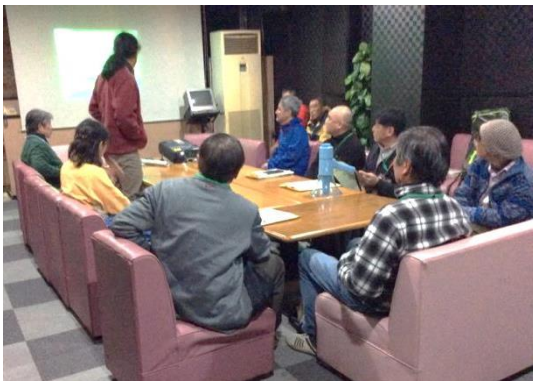
テーマ１の『地域のいきもの・自然保護』では、ラムサール条約登録を視野に入れた今後の展開について、テーマ２『地域の資源　空き家等の利活用』では、環境活動を従来の層から幅広い層へと展開していくために必要な、多様な人が集う拠点づくりについて話し合われました。

また、テーマ３『いなかとまちの交流・エコツーリズム』では、豊橋市自然史博物館館長の松岡先生によるジオパーク構想をもとにしたエコツーリズム、テーマ４『地域の自然と寄り添うくらし』では、自然農や有機農業への理解を地域の人々へどのように広げていくかについて協議が行われました。そしてテーマ５『環境教育～森のようちえん』では、森のようちえん全国ネットワーク副委員長の佐々木さんより「森のようちえん」の考え方を伺い、愛知県春日井市での実践者・小林さんから活動の様子を聞きながら、幼児の自然体験活動の重要性について認識を深めました

時間	分科会テーマ	話題提供者・コメンテーター　他
【1日目】 18：00～ 19：00 【2日目】 10：15～ 11：15	① まもる！ 『地域のいきもの・自然保護』 ② 活かす！ 『地域の資源 古民家・空家等の利活用』 ③ つながる！ 『いなかとまちの交流・エコツーリズム』 ④ めぐる！ 『地域の自然と寄り添うくらし』 ⑤ はぐくむ！ 『環境教育～次世代を育てる』	◎話題提供 表浜ネットワーク　田中雄二さん ◎ファシリテーター　渡邊幸久 （地域の未来・志援センター理事） ◎話題提供 地域ゆいプロジェクト　田中美奈子さん ◎ファシリテーター　中川恵子 （地域の未来・志援センター理事） ◎コメンテーター　祁答院弘智さん ◎話題提供 渥美半島ハイキングクラブ　鈴木一敏さん 環境ボランティアサークル亀の子隊 鈴木吉春さん ◎コメンテーター　松岡敬二さん ◎話題提供 はっくるべりーじゃむ　河合忠志さん いるかプロジェクト　佐野和博さん ◎ファシリテーター 大西康史さん（環境カウンセラー） ◎話題提供 森のたんけんたい　小林直美さん くりこま高原自然学校　佐々木豊志さん いるか自然学校　前田芙美さん ◎ファシリテーター　萩原喜之 （地域の未来・志援センター理事）

＜　分科会の様子　＞

↑分科会･話題提供者の発表



↑分科会①『地域のいきもの･自然保護』

↑分科会②『地域の資源　空き家等の利活用』

↑分科会③『いなかとまちの交流･エコツーリズム』

↑分科会④『地域の自然と寄り添うくらし』

↑分科会⑤『環境教育/森のようちえん』

＜　懇親会とゲストによる発表について　＞

分科会終了後は、全員が大広間に集って夕食＆懇親会を実施。渥美半島近海で取れる新鮮な海の幸、こだわりの野菜などの食材に舌鼓を打ち、美味しい食事と飲み物をいただきながら、交流の輪が広がりました。

また、ゲストによる先進的な活動発表も行われ、会場は大いに盛り上がりました。

←伊勢湾漂着ゴミ問題に取り組む
『22 世紀奈佐の浜プロジェクト』事務局長
森さんのお話

美味しい自然の恵みを満喫！　　↑
渥美半島のポテンシャルを体感しつつ　→
懇親の輪が大きく広がりました。

一夜明けての渥美半島･伊良湖岬の朝
……菜の花畑に映える日の出の様子

＜　2日目講演会について　＞

◎2日目：2016年2月21日（日）

10：00～ 10：45	基調講演２ 地域の特性を知る 『渥美半島の地域資源としてのジオサイト』	講師：松岡敬二さん（豊橋市自然史博物館館長）

＜講演要旨＞

◆エコツーリズムとジオツーリズム

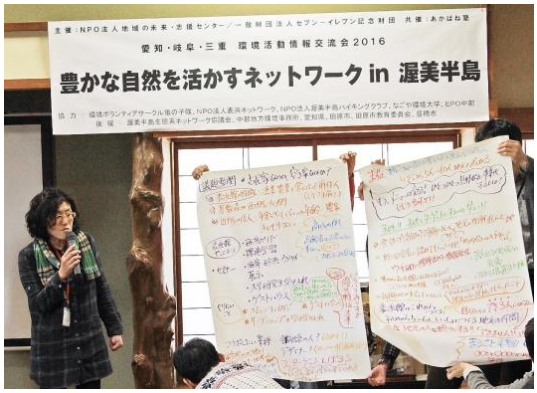
エコツーリズムへの関心が高まる自然豊かな渥美半島。その推進にあたり、現在進んでいる東三河８市町村を含むジオパーク構想についてお話しいただきました。

東三河はジオパークの構成要素であるジオサイト（geosite）が県内でも集中している地域。南アルプスジオパークの南端、青崩峠から続く『中央構造線』は、静岡県西部の山々から愛知・奥三河～豊川沿いに南下して三河湾に入り、伊良湖西ノ浜を横切って紀伊半島に伸びています。伊良湖岬～伊勢の海の道は、古来から人と文化をつなぐ道であったこと等に、参加者は真剣に耳を傾けていました。

＜　全体共有と「渥美半島ネットワーク宣言！」について　＞

◆分科会発表・全体共有

分科会終了後、メイン会場である大広間に全員集合し、萩原理事の進行のもと、各分科会で話し合われた内容について発表していただきました。



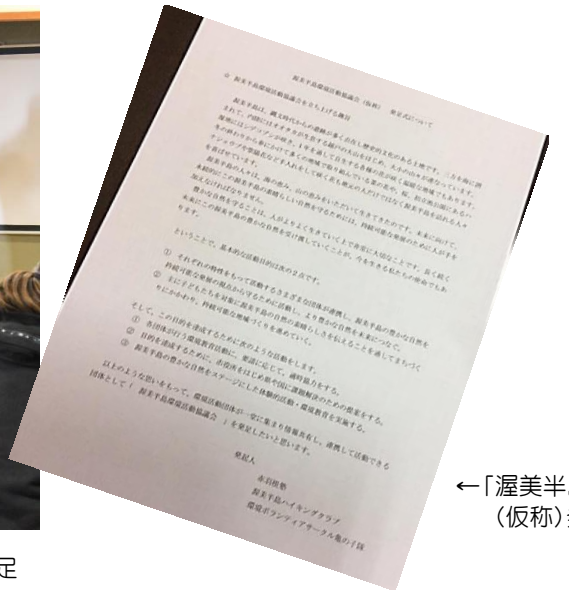
↑全体共有･分科会発表の様子

◆渥美半島環境活動『ネットワーク宣言！』

その後、共催団体「あかばね塾」の事務局長兼当団体理事の渡邊より、渥美半島の環境団体ネットワーク(渥美半島環境活動協議会（仮称）)発足の提案があり、その提案書を環境ボランティアサークル亀の子隊代表・鈴木吉春氏が読み上げました。本提案は、参加者の立ち会いのもと承認され、地域の環境を支える新たなネットワーク組織が発足しました。

最後に、当団体副理事長岩間より、次年度の情報交流会開催案内がなされ、10月9日・10日、西濃地域・岐阜県揖斐川町にある小学校を利用した宿泊・研修施設『ラーニングアーバー横蔵』を会場として開催予定である旨を発表。閉会の挨拶に引き続き、全員で記念撮影を行い、2日間の全プログラムを無事終了することができました。

↑渥美半島環境活動協議会　発足文書を読み上げる鈴木吉春氏



←「渥美半島環境活動協議会（仮称）発足式」について

★参加者全員で記念撮影！★